

新潟県におけるエゾノミズタデの分布

中 沢 英 正

エゾノミズタデ *Persicaria amphibia* (L.) S.F. Grayは、北半球に広く分布し、国内では北海道・本州(東北地方と長野県北部)に知られている。上野(1991)の北本州の植物チェックリストによれば、青森、秋田、岩手県に記録されている。また、角野(1994)の分布図によれば、宮城県にも打点がある(分布図参照)。

長野県北部から北に分布し、長野県では長野市田子池 410-420m (現在絶滅)、長野市飯縄高原大池 900mに分布が記録されている(清水 1997)。新潟県では津南の分布が始めての発見である。

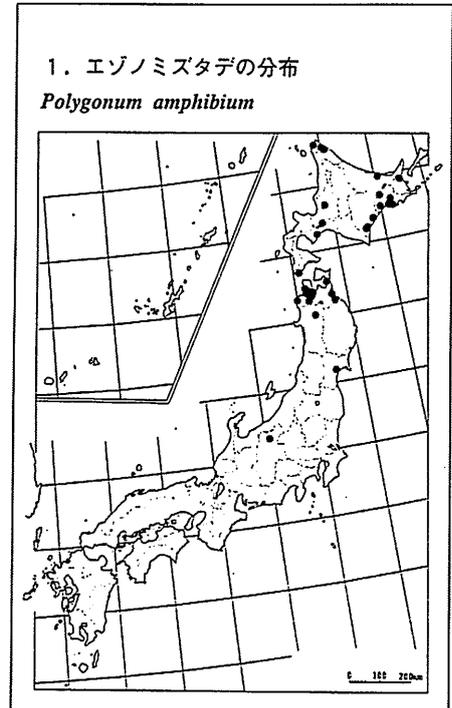
津南の生育地は竜ヶ窪の池がある赤沢台地の西端、田畑が広がる海拔450mにある用水池。南北に65m、東西に45mほどの長方形の池で、小さな湧水がある所を浚渫、以前は養鯉池として利用してきたもの。北側に水門のある低い土手が築かれ、湧水のある南側から用水路が一本流れ込んでいるが、水量は一定に保たれている。水深は 1m前後。

エゾノミズタデは、その土手沿いに多数生育し、池の底から生えているため株数は分からないが、水面まで伸びている茎は数千本に達する。浮葉形と抽水形があるが、抽水形の方が多く、密生したところは小さな島状に見える。

花が見られるのは、7月下旬から8月下旬まで、盛りは8月の中旬である。茎数の割に花のつくものは少ない。9月の中旬までに結実、水面上の葉は枯れてしまう。

池に生育する他の植物は、ヨシが少し入り込んでいるだけである。

この植物が密生したところにはごみがたまりやすいことや、株数の増加、ヨシが多数侵入することになれば、駆除されてしまう可能性もある。数多く見回り保護に努めたいと思っている。



日本における分布図(角野 1994)から引用

本種は、池沼や湿地にはえる多年生の植物で、普通水生である。しかし、時に陸生になり、水生の場合と形が変わるといふ。以下佐竹義輔他(1981) 日本の野生植物による。

水生型：茎の下部は地下茎となり、節から枝と根を出し、上部は斜上または直立し、水面より上に伸び、無毛。葉は長い柄があり、長楕円形、先は鈍形、基部は切形または浅心形で、表面に光沢があり、長さ 7-10cm、幅 2.5-4cm。総状花序は長さ 2-4cm。托葉鞘は無毛。

陸生型：茎は直立し、あらい毛が出る。葉は細く、長披針形、先は鋭形、基部は円形、両面にあらい伏毛があり、長さ 10-20cm、幅 1-1.5cm。総状花序はやや細く、長さ約 2cm。托葉鞘は有毛。

津南では、比較的水深の深い池であり、すべて水生型である。ただし、水面に盛り上がって群落を形成しているところでは、一部陸水型に近いものもみられる。

文 献

角野康郎(1994) 日本水草図鑑 文一総合出版

清水建美(監修)(1997) 長野県植物誌 信濃毎日新聞

上野雄規(1991) 北本州産高等植物チェックリスト 東北植物研究会



【写真 36】生育地 [Aug. 6, 2002]



【写真 37】生育地 [Aug. 6, 2002]



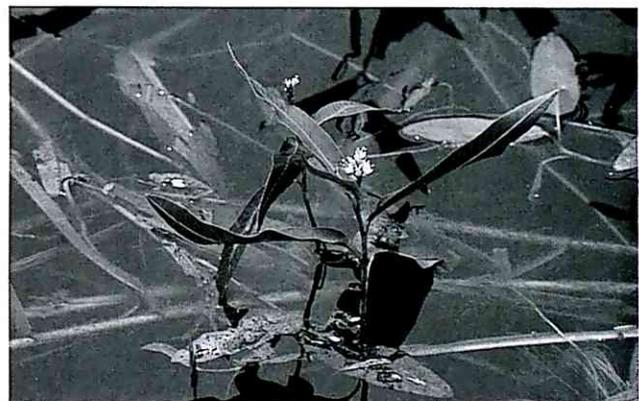
【写真 38】群落(抽水形) [Aug. 6, 2002]



【写真 39】群落(抽水形) [Aug. 23, 2002]



【写真 40】浮葉形の開花 [Aug. 23, 2002]



【写真 41】群落(浮葉形) [Aug. 6, 2002]



【写真 42】抽水形の開花 [Aug. 23, 2002]